

その いずみの園だより vol. 61

2014.8.29

夏季号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。コリントの信徒への手紙 I 13:13

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
中津総合ケアセンターいずみの園

基本理念

神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする
①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 代
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp



マリアガーデンと園児

「いっぽの力」



社会福祉法人 九州キリスト教
社会福祉事業団

理事
河村 賢吾

ことばには力があり、一言のことばが人を活かしたり、殺したりすることがあります。次のようなことばを聞いたことがあります。「そのひとことばで励まされ、そのひとことばで夢をもち、そのひとことばで腹が立ち、そのひとことばでがっかりし、そのひとことばで泣かされる、ほんのわずかなひとことばが不思議な大きな力をもつ、ほんのちよつとのひとことばで」

ことばといえば聖書のことば以上のものはないわけで、個人の体験からすると、自分の力ではどうすることもできない、まさに八方ふさがりに直面した時には、聖書以外のいかなる良き書物をもってしても、それを打開する力のないことを体験しています。

私はもう30年以上も前に、トルストイの「自分を高めることは、すべての人を高めることである」ということばに大いに励まされ、勇気づけられました。そして最近、濱田龍郎氏の詩に出会って、先のことばに近いものを感じ共鳴しました。それは「あなたがかがやけば、ひとをてらすよ、たいようのひかりで、ほしがひかるように」という詩です。あなたのおほ笑みによって一言も喋らなくても、その日は他の人にとつて輝かしい日となるのではないのでしょうか。一人の存在がすべてにつながっているということを思わずにいられません。

「いずみの園」で働く一人一人の人が自分という一人の存在の意味を自覚し、己を高め明るく輝き、お互いに周りを照らす存在となれば職場全体が明るくなり、そしてご利用者様にも喜んでいただける結果を生み、更には社会にも貢献できるのではないかと思います。

「いずみの園」はこの厳しい社会環境の中で、『新5か年プラン』を立て、未来に向かって力強い歩みをなすべき地域社会になくはならない存在としての社会福祉法人を目指しています。

2014年度の第1回理事会・評議員会が開かれました。



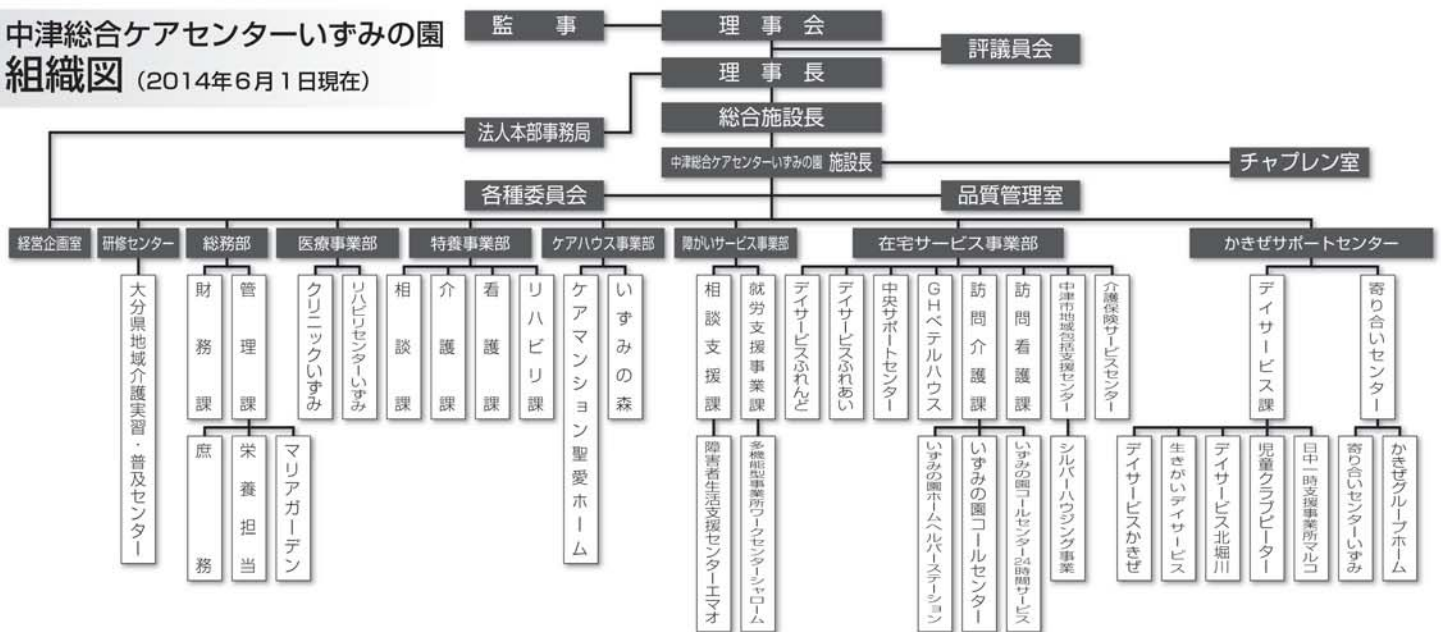
2013年度事業報告・決算報告等を行う2014年度の第1回理事会・評議員会が、いずみ館で5月28日(水)10時30分から行われました。

まず、富永理事長の挨拶で、2013年度をふり返って、2012年4月を起点とする「いずみの園新5か年プラン」の2年目としての着実な事業実施と新規事業の取組および保育事業の順調な運営にふれたのち、2013年度決算報告、昨今の社会福祉法人の在り方をめぐる動向を踏まえ、公益性や先駆性を堅持した経営を着実に進めていく旨の理事長報告がありました。

続いて審議に入り、監事監査の報告をうけ2013年度事業・決算報告の承認と、組織・人事案件及び各種規程・規則の改訂について、事務局からの報告を受け、評議員会での審議が行われました。

午後からの理事会では、今後の事業の方向性や財務状況について、公益性が求められる法人として経営は順調に推移している旨の監事報告があり、審議事項の各事案について全理事の賛成と、報告事項の了承を得て散会しました。(法人本部事務局)

中津総合ケアセンターいずみの園 組織図 (2014年6月1日現在)



組織の変更

- 6月1日付 ア.「在宅支援サービス事業部」と「デイサービス事業部」を統合し、「在宅サービス事業部」とする。
- イ.「いずみの森」の所掌を「総務部」から「ケアハウス事業部」に移管する。

人事異動

2014年4月17日以降

① 異動役職者

- 6月1日付 熊井カホル ケアハウス事業部 部長兼聖愛ホーム長
- 堤 健生 チャプレン室 チャプレン
- 市川 朋克 在宅サービス事業部 部長
- 須崎 敏治 中央サポートセンター 課長
- 高倉 哲也 リハビリセンターいずみ 課長
- 山崎 容子 デイサービスふれあい館 主任
- 八田 淳子 デイサービス北堀川 主任
- 松井 学 総務部 主任(出向)
- 宮崎 千恵 介護課 主任
- 河野 英之 介護課 主任
- 森 智弘 看護課 主任
- 小松 告代 デイサービスふれんど館 主任
- 坂田 宏子 リハビリセンターいずみ 主任
- 中野 尚義 中央サポートセンター 主任

② 異動一般職

- 6月1日付 金尾 瑛理 デイサービスふれんど館 生活相談員兼介護員
- 白石佐奈枝 看護課 看護師
- 吉川 太志 介護課 介護員

③ 新採用

- 5月1日付 永松 幹登 経営企画室 事務員
- 永元 淳子 児童クラブピーター 指導員
- 5月12日付 西 晃平 介護課 介護員
- 5月19日付 隅野 貴子 介護保険サービスセンター 介護支援専門員
- 6月16日付 中尾 祐治 介護課 介護員
- 6月23日付 安本 恵 介護課 介護員
- 佐々木陽一 財務課・管理課 事務員

(以上 2014年7月31日まで)

2014年度各部（センター）別事業計画（主なもの）

経営企画室	①「いずみの園新5か年プラン」後期の執行状況の把握 ②新規事業・収益事業の立案・研究	
総務部		
管理課	①業務改善と効率化 ②魅力ある職場づくり	
財務課	①月次財務管理 ②各事業所との財務分析	
栄養担当	①栄養ケア・マネジメント ②栄養改善の取組	
マリアガーデン	①心身ともに健康でしなやかな支援 ②子どもと保護者の関係援助	
研修センター	①初任者研修の広報・受講者確保 ②新研修事業の開拓	
特養事業部（本館）		
相談課	①先端ケア知識の習得 ②ショートステイ利用者の骨折ゼロへ	
リハビリ課	①誤嚥性肺炎による入院者の減少 ②経管栄養造設者の減少	
介護課	①利用者の健康管理 ②職員の資質向上	
看護課	①看取りの充実（QODの実践） ②吸痰吸引等のフォローアップ	
特養事業部（ヨハネ館）	2014年4月からのヨハネ館（個室ユニット型）についても上記（本館）と同じ。	
在宅サービス事業部	ふれんど館	①利用の安定と稼働の維持 ②地域交流の促進
	ふれあい館	①安定経営と利用者の確保 ②サービス提供プログラムの見直し
	中央サポートセンター	①安定経営と利用者の確保 ②地域ケア会議への参加
	ペテルハウス	①ケアプラン評価の見直し ②重度化への対応
	訪問介護課	①スタッフのさらなる質と実践力の向上 ②障がいサービスへの取組
	夜間対応型訪問介護	①新規利用者の獲得 ②サービスの広報活動
	定期巡回・随時対応型訪問看護	①新規利用者の獲得 ②サービスの広報活動

訪問看護課	①安心して選んでもらえるサービスの質の向上 ②人材育成
地域包括支援センター	①自立支援型ケアマネジメントの普及啓発 ②多職種連携強化
シルバーハウジング	①相談助言・一時家事援助 ②地域・関係機関との連携
介護保険センター	①地域包括ケアシステムの推進・構築 ②ケアマネジメントプロセスの確立
医療事業部	
クリニックいずみ	①診療の充実 ②医療情報の収集・リスク管理
リハビリセンター	①目標志向型リハビリの進展 ②地域・医療機関への情報展開
障がいサービス事業部	
相談支援課	①サービス等利用計画作成の推進 ②地域移行・地域定着支援の推進
就労支援事業課	①外部作業受注の検討（A型） ②利用者の出勤率向上（B型）
ケアハウス事業部	
聖愛ホーム	①職員の職務分担の見直しと資質向上 ②生活の質の向上
いずみの森	①入居者の満足度の向上 ②「いずみの森」内の人的交流促進
かきぜサポートセンター	
デイサービスかきぜ	①安定経営と利用者の確保 ②共生ケアの発展
デイサービス北堀川	①利用者の定着 ②ニーズに沿ったサービス提供
児童クラブピーター	①共生型空間を活かした児童健全育成 ②地域と協力した児童健全育成
日中一時支援事業所マルコ	①快適な環境と空間の提供 ②個性に合った自立支援
寄り合いセンターいずみ	①安定した利用者確保 ②的確なケアプランの整備
かきぜグループホーム	①サービスの質の向上 ②地域・行政との連携

2015年4月開設「福祉の里センター サマリア館」の進捗について

事業内容

	高齢者	地域交流
2階	・介護予防・日常生活支援総合事業 ・訪問看護ステーション	・会議室 ・地域伝承スペース
		・子育て ・障がい者
1階	・地域子育て支援事業	・カフェ ・調理室
		・児童発達支援事業 ・放課後等デイサービス事業

骨格となる構想（プラン）

- 介護保険等
 - ・地域ケアシステムの推進
 - ・介護保険、介護予防、元気老人、健康維持
- 障がい福祉
 - ・共生する社会の実現
 - インクルーシブな社会（包摂する社会）
 - ・働く場、地域での居場所づくり
- 子ども子育て
 - ・次世代育成
 - ・若い母親の子育て・各種相談（お年寄りが悩み相談にも対応）
- 地域住民
 - ・地域の文化を次世代に伝承
 - ・思いやりにあふれ、安心して暮らせるまちづくり

「いずみの園かきぜサポートセンター」では、2015年4月開設に向け、「福祉の里センター サマリア館」の建設の準備を行っています。

21世紀は「共生の時代」と言われますが、本事業は①多世代間の交流、②共生社会の実現、③次世代への文化伝承を特徴としており、この事業の実施が、中津城下町の下町である蛸瀬地区の各年代層にとっても有益な社会資源となり、「社会の豊かさ」につながっていくと願っています。

なお、中津市の新市長も「福祉の里づくり」を重点政策として、市政の推進に尽力されており、当法人としてもその一翼を担う事業と考えています。



かきぜサポートセンター
センター長 豊田 毅士

- 今後の予定
- 2014年9月 入札・起工式・工事着手
 - 2015年2月 竣工・引き渡し
 - 2015年3月 竣工式
 - 2015年4月 事業開始



福祉の里センター サマリア館 完成イメージ図

ひろ ば いずみの園広場

ご利用者ご家族の声

介護保険サービスセンター

永末三四子様のご家族 永末美智代様

ずっと元気だった義母の直腸癌がわかったのは、四年前八十九歳の時でした。心配しましたが、内視鏡手術も無事成功し一ヶ月で退院。その後、介護認定を受け「いずみの園」のデイサービスやショートステイを利用してもらうようになりました。自宅や家族だけではどうしても限界がある中、季節折々の花を見て連れて行ってくださったり、生活リハビリや他にもお世話になりながら、義母もいろんな方との交流も出来、お陰様でとてもいい時間になっています。それでも、十数年前からの認知症状が段々進む中で、私自身葛藤があったり、しなくてもいい夫婦喧嘩になったり；辛い時期にケアマネジャーさんや職員の方に相談させてもらった際、本当に親身になってくださり、義母だけでなく、家族も支えてもらっていることを強く実感しました。

「介護」は決して楽とは言えませんが、「老いる」といういづれ誰もが通る途を学ばせてもらいながら、夫婦で力を合わせて、自分出来ることを出来る形でやって行きたいと思っています。そして、これからも「いずみの園介護保険サービスセンター」に関わる方々に沢山助けたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



ご利用者ご家族の声

デイサービスセンターふれあい館

木戸ミドリ様のご家族 杉村美千代様

「とても良い所だったよ。午後になってだんだん帰りが気になったから聞いてみたんよ。やさしく説明してくれたんよ。」平成23年9月6日「ふれあい館」で母が初めて過ごした夜の会話です。それから週に1度のデイサービスの日をとっても楽しみに待つようになりました。「今日は「ふれあい館」に行く日ですよ。」と声かけすれば、さっと起き出し行動はいつもより早くなり、自分から朝食を食べ始めていたことを思い出します。

お花見・紫陽花・紅葉ドライブ等々で季節を満喫したり、雛人形見学・七夕飾り作成・初詣等々で昔をなつかしんだり、この3年間、「ふれあい館」での様々な行事が母の脳を大いに刺激してくれました。「豆まきというのをしたんよ。」と帰宅後、興奮気味に話してくれたこともありました。また誕生会・みんなの料理についても母からよく報告を受けました。お忙しい中、たくさんの行事を行っていただき本当にありがとうございます。

しかし、楽しく過ごしてきた母もこの頃は歩くことに憶病になり、家では服薬・義歯装着等の拒否も増えてきました。それでも「ふれあい館」では、まだ大好きな歌を口ずさみ手拍子をしたり踊ったりできるそうです。うれしい限りです。

このような「ふれあい館」の皆さま方の温かいご支援のおかげで、まだ住み慣れた我が家で過ごせることに感謝する毎日です。いつも変わらぬ笑顔で見守り接してください。「ふれあい館」に出会えたことに幸せを感じています。本当にありがとうございます。



特養事業部 リハビリ課

私たち「リハビリ課」は、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士といった6名のスタッフで、100名の入所者と27名のショートステイご利用者の支援を行っています。

市内・県内はもちろんのこと、全国的にもこれだけのスタッフがいる特養はあまり多くなく、介護保険下では機能回復訓練などに先駆的な役割を担っています。

また、一般の高齢者施設では対応が難しい退院後の脳卒中の方や、進行性疾患の方などへの支援も行い、市内にお住まいの方や施設の中で生活される方々のニーズにお応えしています。

その中で、昨今、言語聴覚士や歯科衛生士による胃瘻栄養者の経口摂取再開は、全国のモデルとしてピックアップされ高い評価を受けました。今後も一緒に働く仲間を支えられながら、その先駆性・専門性で、地域の中で欠かせない存在となり、社会全体にも貢献できるような働きを行っていきたくと考えています。



スタッフです



機能訓練の様子

かきせグループホーム

「かきせグループホーム」は2010年7月1日に開設され、現在18名の方が生活されています。9名一グループの共同生活（ユニット）ですが、皆様がそれぞれ違う価値観、生活習慣をお持ちです。私達職員は、その違いを大切にしながら、一人ひとりの自分らしい生活を支援しています。

普段は買い物や地域のお祭りに出掛けたり、洗濯や掃除などの家事、ご自分のお部屋でゆっくり過ごされるなど、思い通りに生活されています。時には元気がない方を訪ねて励ましたり、嫌な事があつたら愚痴を言い合ったりする光景も見られます。誕生日には、その日に皆でケーキを作りお祝いしています。

それでも認知症という病気のために、混乱し辛い思いをされる方もいらっしゃいます。そんな時は、ヘルパーや特養など介護現場での経験豊富な職員が沢山おられますので、ご本人の思いに耳を傾けながら、皆で知恵を出し合って、より良い解決策を考えています。



スタッフです



リビングでの様子

認知症の症状があつたとしても、心は変わりません。ですから、一人ひとりの人生を理解し、思いに寄り添うことに努めています。一方で、記録やデータを分析し、科学的な介護も取り入れ、認知症介護専門施設として皆様によりご満足頂けるよう、サービス向上に努めています。

保育士の活動について



事業所内保育施設マリアガーデン
保育士 前田 直美

3年前（2011年4月）、いずみの園に『事業所内保育所』が出来、保育士として勤務させていただいています。保育士は、一人ひとりの年齢や発達状況に応じて遊びや行事、生活体験を通じて子どもたちの心と体の成長を助ける仕事をしています。また、保護者からの子育てに関する相談に応じることも保育士の重要な役割となっています。時間的にみると子どもと親と同じくらい、もしくはそれ以上の時間を一緒に過ごすので、子どもの成長に影響する役割として大切な存在になっています。

「マリアガーデン」は保育園とは違い少人数で過ごすため、アットホームな感じがあり、また個々の成長を職員や子ども、保護者が一緒になって喜べるという大きな利点があります。一人で出来ることが増えたり、友達と遊ぶことを覚えたり、時にはケンカもありますが、毎日のように子どもの成長を感じることが出来ます。子どもの成長に影響があり、それに伴う責任や大変なことも発生しますが、とてもやりがいのある仕事です。

自分と子どもたちが一緒に生活をし、成長を見届けていけるといふことは、本当に感動的で、保育士をやっているよかったですと思える一つでもあります。



内庭でのシャボン玉遊びの様子

福島県の特別養護老人ホームへの派遣

福島県広野町にある特別養護老人ホーム「花ぶさ苑」の介護士不足を応援するため、大分県社会福祉施設経営者協議会により昨年11月から、大分県内の6法人12名の介護士が1人1ヶ月間応援派遣に行っています。

「いずみの園」からは、5月5日から、6月1日から、計2名の職員が、それぞれ1ヶ月間応援派遣に行きました。派遣された2人に感想を聞きました。



特養事業部 介護課
介護福祉士 粉 利治

東日本大震災から3年。今回、2014年5月5日〜6月1日の間、福島県いわき市広野町にある「花ぶさ苑」の介護職員派遣に参加させていただきました。

「花ぶさ苑」は10名1ユニット定員40名の平屋建てのユニット型施設でした。施設の周りは高台になっており、直接、津波の被害を受ける場所ではなかったのですが、居室の窓からは福島第二原発の建屋が遠くに見え福島にいる事を実感する毎日でした。

派遣初日は、ご利用者のそばで座っていることを依頼され、信頼関係を築くことから始めました。ご利用者ともいろいろな話が出来ないように、「もう歳だからね。他では暮らせないよ。ここで生まれたから。ここで生きて行くだけ。それ以外の理由はないよ」と笑いながら話してくれたある90歳前の女性のご利用者の言葉が一番印象に残り、その思いに寄り添うのが、大切だと感じました。



「花ぶさ苑」の外観



かきゼサポートセンター
かきゼグループホーム
介護福祉士 岡崎 真理

「よぐきたねえ」

初日、ご利用者に笑顔で言われた言葉でした。知らない土地で不安ばかりの私はその一言でとても安心しました。会話をしても東北訛りと方言で聞き取れないことも多かったけれど、ここにここと笑いながらいろいろな話をしてくれるご利用者の表情がとても印象的でした。



未だ手つかずの被災地

現地の環境に合わせて働く中で、新しい知識やたくさんの方の経験を吸収できました。その中でも、「いずみの園」で今まで経験してきたご利用者主体の考え方やケアが私にしっかりと身についていること、「いずみの園」のケアの良さやケアの質の高さを改めて感じる事ができました。

被災地の現状を見ることもできました。震災当時そのままの風景が、まだあちこちで見られ、衝撃を受けたと同時に復興にはまだ時間がかかることを実感しました。

1か月間で経験したことや学んだこと、感じたことをたくさんの方に伝え、自施設でも役立てることができるよう努めていきたいと思っています。

事業内容ワンポイント説明

No.2 Q. ユニトリリーダー研修実地研修施設に認定されましたが、どのような研修をするのですか？

介護課 課長 野見山 晃

A. 新型特養（ユニット個室）には、2ユニットに1名以上「ユニトリリーダー」の配置が義務付けられています。「いずみの園」は2013年10月1日に、大分県でユニトリリーダー研修実地研修施設の第1号として認定されました。

「ユニトリリーダー」になるためには、座学3日間、実地研修5日間の研修を受講する必要があります。実地研修内容は、①高齢者の尊厳を守りその人らしい生活を支援するための方法を学ぶ②職員の動きを客観的に観察し、入居者の立場で一日の暮らしを考え・体験する③自施設にもどって、どのようにユニットケアを展開したらよいか運営上の留意点や工夫について検討することの3つを大きな目的としています。また、毎日のカンファレンス（話し合い）の中で、お互いの施設での取組や課題等について意見交換をすることで、「共に学びあえる成長できる場」になるよう努めています。



実地研修の様子

No.3 Q. ホームヘルパー2級研修が介護職員初任者研修に制度変更されましたが、どのようなものになったのでしょうか？

研修センター センター長 岩崎 深雪

A. 2012年度まで訪問介護員（ホームヘルパー）になるには、ホームヘルパー2級養成課程を修了することで、「訪問介護業務」いわゆるホームヘルパーとして業務に携わることが出来ました。

しかし、2013年4月から、介護保険施行規則の改正により、従来（基礎研修、ヘルパー1級、ヘルパー2級）の複雑な修了課程が、「介護職員初任者研修」に一元化されました。どちらも受講者が基本的な介護業務を行うことが出来るようになることを目的としています。大きな違いは、講義終了後「筆記試験制度」が取り入れられたことです。試験があるという点と難しいと思われるかもしれませんが、学ぶ姿勢や知識の確認など得るものが多くなっています。



介護職員初任者研修の一場面

チャブレン通信



堤 健生

「かつてあったことは、これからもあり…」
旧約聖書 コヘレトの言葉

少し前テレビのBS放送で、時計職人の方の番組がありました。
この方は時計の部品全てを何から何まで自分で手作りして完成させます。意匠を凝らしたデザインやぜんまいも歯車も全て自分で設計したものを手作業で一つ一つ作り組み立てていかれます。

この職人の方が次の様な意味のことを言われました。「人の手でできることは大昔も今もそして将来も変わりません。人に与えられている時間は1日24時間、これも同じ。私は昔の人の手わざで競えるというところに魅力を感じて最高のものを目指してやっています」と。

私はこの放送を聞いていて、聖書に書かれた今から何千年も前の物語を読んでいる自分を思いました。又福祉の仕事というものも、1日24時間の中で大昔からずっとと変わらずになされてきた「人の手わざ」であるのだと改めて思い、大昔の先人とのつながりのような気持ちにさせられました。

園内の花木を探索

「いずみの園」の敷地内にはたくさんの花木が植樹されています。この花木をシリーズで紹介いたします。

●サルスベリ (百日紅)

中国南部を原産とする夏を代表する花木の一つで、夏から秋にかけて花を咲かせます。花が美しく、耐病性もあり、必要以上に大きくならないため、しばしば好んで庭や公園などに植えられます。

「いずみの園」では、コールドセンターの建物の奥に、2本植えられています。

新しいつるつるした樹皮から、「猿も滑って落ちる→猿滑り」というのが名前の由来とされているそうです。また、漢字の「百日紅」は、長い間花を咲かせることに由来するそうです。



7月から「いずみの園地域貢献事業紹介小冊子」の作成に向けて準備を進めています。

厚生労働省に設けられた有識者による「社会福祉法の在り方等に関する検討会」が終了し、7月4日、報告書「社会福祉法人制度の在り方について」が公表され、社会福祉法人の「公益的な活動の実施義務」、「透明性の確保」などが制度改革の方向とされています。

当「いずみの園」はその理念においても「ローカリテイ(地域密着主義)」を謳い、地域貢献については積極的に行っていますが、これら「地域貢献」事業を対外的にも「見える化」をはかるための小冊子を作成する関係部次長による第1回作成検討会を、去る7月4日に開催しました。

この検討会は、4、5回開催し、大分県社会福祉協議会内に設けられた「社会福祉法人の社会貢献事業推進会議(委員長:当法人富永理事長)」の状況も見ながら、小冊子として10月にはまとめる予定です。(経営企画室)



作成検討会の様子

「居酒屋幸」から「甘味処ふくろう」へ、リニューアルしました。



特養事業部 介護課
介護福祉士 倉原 未来

「特別養護老人ホームいずみの園」では15年前からご利用者を対象として居酒屋を行ってききましたが、現在では利用される方は女性が多く、「甘い物がたべたい」という要望が多く聞かれ、今年の6月より「居酒屋 幸」から「甘味処 ふくろう」に一新しました。

新メニューは、回転焼き、ホットケーキ、3色団子、わらびもち、アイスクリーム、たこ焼き、からあげ、ビールなどで季節の限定メニューとしてミルクセーキを追加しています。

シヨートステイのご利用者や、ご利用者のご家族も利用できます。どのメニューも一品100円となっています。ご利用者が週に一度、いつものグループを離れて、ちょっと一息つける場になればと思っています。



編/集/後/記

この号の校正をしている頃の8月7日は、24節季の第13番目にあたる「立秋」で、暦の上で秋になる。厳しい暑さが残っているが、夕方涼やかな風に秋の気配も感じられるようになってくる。秋立つ」ともいわれる。立秋以降の暑さを残暑ともいう。この日挨拶は「残暑見舞い」となる。

昔の人のこのときわざ「夏の夕焼け橋渡れ、秋の夕焼け鎌を研げ」という言葉がある。夏の夕焼けの翌日は雨なので、その日のうちに川を渡れ、秋の夕焼けの翌日は晴れるから、野良仕事の準備をしておけということなのだろう。

そろそろ、夕焼けを見れば、鎌を研ぐ準備をしなければ。(末)



都留・有隅・山下・坂田・馬場・中村・末延・島元 (広報委員会全メンバー)

「オレンジカフェ」を行っています。



「オレンジカフェつききのき」の様子



「オレンジカフェなかつ」の様子

「地域包括支援センターいずみの園」では2014年度中津市の「地域支援事業」として「認知症対策等総合支援事業」を受託し実施しています。

この事業は、認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で生活を継続できるようにすることを目的としています。

この取組の1つに「認知症カフェ(オレンジカフェ)」があります。毎月1回程度、市内4カ所で、医師、看護師、社会福祉士、介護福祉士、ケアマネジャー及び市役所職員等が「カフェスタツプ」として、医療機関やケアマネジャーより紹介されたお客様やご家族とコーヒー等を飲みながら相談を受け、診療やケアマネジメントに活かしてもらおうようにしています。

※「オレンジ」は認知症をサポートするイメージカラーです。



在宅サービス事業部
「認知症受託事業」担当
社会福祉士 居倉 央実

第4回法人内職員研修会を開催しました。



講話中の多田理事

その後休憩をはさんで、「中津市認知症施策といずみの園」、「新保育制度について」、「いずみの園『福祉の里センターサマリア館』構想」、「めぐみ保育園の定員増に伴う増築」についての説明・報告があり、17:45に終了しました。(法人本部事務局)

8月16日(土) 15:00から、「社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団」の第4回法人内職員研修会を、地域交流ホール「いずみ館」で行いました。
今回は52名の当園及び3保育園の法人職員と、「介護保険総合ケアセンターシオンの園」から3名の方が参加され、行われました。
まず富永理事長の挨拶のあと、当法人多田理事から『キリスト教保育について』と題して講話があり、「平和・生命(いのち)をキリスト教保育の大切な柱として、私たちの仕事こそ、キリスト教福祉の理念を実践する尊い仕事である」とのお話を頂きました。



法人内職員研修会の様子

社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団『魅力発信書』を発行しました。



2013年4月に「いずみの園」が35周年を迎えたことをきっかけに、法人全体の「魅力」を発見し、冊子にまとめようと企画し、昨年の7月から毎月、20代30代を中心とした各事業所の職員7人がメンバーとなって『法人魅力発信書』編集会議を開催してきましたが、本年4月17日ようやく発行にこぎつけました。
内容は、「職員の選ぶハード・ソフトベスト10」から「サービスカ・職員力・経営力・地域力・リハビリ力」さらに「地域包括ケアシステム」など、法人内の「中津総合ケアセンターいずみの園」及び3保育園や母体の中津教会などを、写真を中心に構成したものです。
この『魅力発信書』は当園のホームページのお知らせ欄(2014.5.08付)に掲載していますので、ご覧ください。
HPアドレス: <http://www.izuminosono.jp/>
(経営企画室)



参加されている新貝市長



最後は最後まで踊りの輪に参加されました。(写真左上)
また、新貝中津市長ご夫妻も来園され、市長は最後まで踊りの輪に参加されました。(写真左上)
今年も8月16日に、毎年恒例の上ノ原地区と合同の慰霊盆踊りが、「いずみの園」玄関前広場にて行われました。ハッピー姿のご利用者、地区の方々、浴衣姿の職員が入りまじり、中津音頭や炭坑節などおなじみの曲を太鼓の音に合わせて踊り、最初は小さかった踊りの輪も、次第に大きくなりました。
また、新貝中津市長ご夫妻も来園され、市長は最後まで踊りの輪に参加されました。(写真左上)

上ノ原地区 合同慰霊盆踊り



竹工芸に挑戦中

8月4日(月)、5日(火)の1泊2日で、「いずみの園」恒例の「ジュニアワークキャンプ」を行いました。小学3年生から高校2年生の男女29名が参加しました。今年も昔のものを作りをメインに竹工芸に挑戦しました。
手に汗かきながらの、見事な作品が完成しました。また、「いずみの園」でしか体験できない高齢者とのふれあい(食事介助・移動介助・話し相手等)で、ある生徒がご利用者より「ありがとう」と話していました。今年度も楽しくガヤガヤと無事に全ての日程(車イス体験・夕食のカレー作り・レクリエーション体験等)を終了することが出来ました。
また来年も来たいです。楽しかったと言って帰った生徒の声が今も心に残っています。(研修センター)

2014年度のジュニアワークキャンプが行われました。

第16回 いずみの園フェスタ開催

日時 10月18日(土) 午前10時～午後2時
会場 いずみの園 中津市永添2744 (総合グラウンド近く)

- イベント盛り沢山
- 屋台・バザー・わんぱくコーナー ●もちつき ●献血車
 - 顔写真入りカレンダー作成 ●健康・介護保険相談 ●小笠原古流お茶会

- ステージ
- ・琴城流大正琴大分県北部支部琴好会
 - ・中津市民吹奏楽団
 - ・大分県糸口学園 糸口太鼓
 - ・PASS TIME & めぐみ幼稚園ダンス教室
 - ・大江戸ジュリマジックショー
 - ・よさこい踊り 大分舞華軍団 おかみさんクラブ
 - ・琉球國祭り太鼓(大分支部)
 - ・オカリナ同好会トトロ



※イベント・ステージは変更になる場合があります。協賛/中津ライオンズクラブ

「いずみの園」職員の「ビアパーティー」が行われました。

7月25日(金) 19時から、JR中津駅近くにある結婚式場「ヴィラルーチェ」の大ホールを貸し切って、「いずみ会(職員親睦会)」主催の毎年恒例の『ビアパーティー』が行われ、173名の職員と、特別ゲストとして「中津ライオンズクラブ」より9名の方が参加されました。

暑い夏の夜にビールやジュースなどで喉を潤す中、ゲストの皆様によるバンド演奏ではアンコールが起こる程大いに盛り上がり、後半のカラオケ大会では、職員が気持ちを込めて歌うなど、ビアパーティー会場が一つとなり楽しい時間を過ごしました。(いずみ会役員)



ビアパーティーの様子